

Q6. 外国語の授業で使えるクラスルーム・イングリッシュを教えてください。

授業の中で指導者が使うクラスルーム・イングリッシュは、子どもたちの英語力や聞き取る力を単に伸ばすためのものではなく、**授業の雰囲気づくり**や子どもたちを英語の音や表現に慣れさせ、**英語に対する抵抗感を減らす**ために用いるものです。**指導者が、積極的に英語で授業を進める姿**こそが子どもたちの学習を後押しします。とにかく使いながら慣れていくことが大切です。



コミュニケーション活動・言語活動において指示する表現例

※実際には、please を付けて使う場合があります。

- | | |
|------------------|---|
| ① 活動(ゲーム)をしましょう。 | Let's do an activity. / Let's play a game. |
| ② 8ページを開いてください。 | Open your textbook to page eight. |
| ③ 机をきれいにしなさい。 | Clean your desks. (関連)Put your desks together.机を合わせて。 |
| ④ 歌を歌いましょう。 | Let's sing a song. (関連)Let's chant. チャンツをしましょう。 |
| ⑤ ペアになりなさい。 | Make pairs. (関連)Change pairs. ペアを代えなさい。 |
| ⑥ 4人グループになりなさい。 | Make groups of four. |
| ⑦ 向かい合いなさい。 | Face each other. (関連)Look at your partner. 相手を見なさい。 |
| ⑧ 準備はいいですか。 | Are you ready (to start)? |
| ⑨ 質問はありませんか。 | Do you have any questions? / Any questions? |
| ⑩ あなたの番です。 | It's your turn. (関連)It's my turn. 私の番です。 |
| ⑪ 役割を交替しなさい。 | Change roles. / Switch roles. |
| ⑫ 手伝ってくれますか。 | Can you help me? (関連)Any volunteers? やってくれる人は? |
| ⑬ もう一度言ってください。 | Pardon me? / Could you say that again? |
| ⑭ 恵さんの話を聞きましょう。 | Let's listen to Megumi-san. |
| ⑮ 何枚カードを持っていますか。 | How many cards do you have? |

褒めたり励ましたりする表現例

- | | |
|-------------------|--|
| ⑯ よくできました。 | Good! / Great! / Good job! / You did it! / Well done! |
| ⑰ 素晴らしいです。 | Excellent! / Wonderful! / Fantastic! / Perfect! / Super! |
| ⑱ 惜しい。 | Close! / Almost! |
| ⑲ よく頑張りました。 | Nice try! / Good try! |
| ⑳ よい考えです。 | That's a good idea! (関連) That's right! 正解です。 |
| ㉑ (彼女/彼)に拍手しましょう。 | Let's give (her / him) a big hand. |
| ㉒ あなたならできます。 | You can do it! |

その他授業中のさまざまな表現例

- | | |
|---------------------|---|
| ㉓ ワークシートに名前を書きなさい。 | Write your name on the worksheet. |
| ㉔ お茶を英語で何と言いますか。 | How do you say <i>ocha</i> in English? |
| ㉕ 何の教科(スポーツ)が好きですか。 | What subject (sport) do you like? |
| ㉖ 夏休みに何をしましたか。 | What did you do for your summer vacation? |
| ㉗ 行ってみたい国はどこですか。 | What country do you want to visit (go to)? |
| ㉘ 今日は楽しかったですか。 | Did you have a good time today? / Did you have fun? |

新学習指導要領の全面実施により

小学校5・6年生で外国語科の授業がスタートします！

岩手県教育委員会

Q1. 教科としての外国語科では、子どもたちにどのような力を育むのですか？

新学習指導要領では、教科等の目標について、①**育成することを目指す資質・能力(何ができるようになるか)**と、②**教科等の特質に応じた学習過程(どのように学ぶか)**が明示されています。

小学校学習指導要領(平成29年3月31日告示) 第2章第10節 外国語 第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、**外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。



生きて働く
知識・技能の習得

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、**日本語と外国語との違い**に気付き、これらの**知識を理解する**とともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる**実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能**を身に付けるようにする。

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、**自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力**を養う。

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、**他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度**を養う。



小学校外国語科で育む「**コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力**」は、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性の涵養」の**3つの柱**で整理されています。これら3つの柱は、次のように捉えると分かりやすいです。

新学習指導要領において目指す、「コミュニケーションを図る資質・能力」の3つの柱の捉え

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解とそれらを実際のコミュニケーションで活用できる技能

コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて理解したり表現したり伝え合ったりすることができる力

外国語の背景にある文化の理解、相手への配慮を行いながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度

Q2. 外国語活動や外国語科の授業は誰が行うのですか？

各学校の実態に応じて、**学級担任による指導**と**一定の英語力を有した教員による専科指導**を両輪とした指導体制で取り組んでいきます。しかし、専科教員がすべての学校に配置されているわけではないため、多くの学校では、学級担任を中心とした授業が行われます。外国語活動・外国語科の授業における**ALT等の効果的な活用**、中核教員等を中心とした**校内研修の充実**が望まれます。



小学校の外国語教育の特性を踏まえた質の高い授業の実施を目指して

- 英語による言語活動を通じた指導 ○音声中心の学習から段階的に読むこと、書くことにも慣れ親しむ
- 中学校への円滑な接続 ○児童の不安を取り除き、失敗を恐れない雰囲気づくり ○各教科等の学習との関連付けなど

一定の英語力を有した
教員等による
専科指導



学級担任
による指導



ALT

ネイティブ・スピーカーや
英語が堪能な地域人材

- 校長のリーダーシップの下、
- ・各学校の実情に応じた**最適な役割分担**
 - ・校内研修等は**学校全体**で取り組む
 - ・地域の**中学校・高等学校との連携**



チーム・ティーチング

- ・児童の発話を引き出す**生きた英語の提供**
(会話モデルの提示、児童とのやり取りなど)
- ・**異文化理解の促進**
- ・児童のコミュニケーション意欲や学習意欲の向上

Q3. 「聞くこと」や「話すこと」の指導ではどのようなことに気を付ければよいですか？

外国語活動でこれまで取り組んできた、子どもの心を動かすような活動を大切にしつつ、単にゲームで終わるのではなく、子どもが自分の立場で**自分の気持ちや考えを英語で伝え合うような言語活動を中心(ゴール)に据えた単元づくり・授業づくり**が必要です。1単位時間で必ず定着させるといった考え方ではなく、単元の中に繰り返し設定した**言語活動を通して**、子どもが少しずつ**「英語を聞いたり話したりできるようになる」**ことを目指します。



「聞くこと」の指導のポイント

- ①**目的をもって英語を聞く**ような場面を設定しましょう。
- ②**内容を推測**させながら、**繰り返し英語を聞か**せましょう。
- ③少しでも聞き取れたことを評価し、**子どもに自信**をもたせましょう。

「話すこと[やり取り・発表]」の指導のポイント

- ①教師が、**英語を話すモデル**になりましょう。
- ②話す内容を**「自分が本当に伝えたいこと」**にしましょう。
- ③**やり取りも発表も雪ダルマのように少しずつ成長**させましょう。
- ④話題や場面を変えながら**既習表現を繰り返し**使わせましょう。
- ⑤話す活動に、**実物や写真・イラスト**などを活用しましょう。

「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」という言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用されます。

Q4. 「読むこと」や「書くこと」の指導ではどのようなことに気を付ければよいですか？

小学校の外国語教育では、聞いたり話したりする活動を通して、**音声面で十分に慣れ親しんだ英語を読んだり書き写したりする体験**をしますが、初見で英文を読んだり、何も見ないで英文を書いたりするスキルの獲得までは目指していません。ただし、**アルファベットの大文字・小文字**については、卒業時まで**に読んだり書いたりできるように指導**することが求められます。



「読むこと」の指導のポイント

- ①**アルファベット**には、**名称(読み方)**と**音(英語の音)**があることに気付かせましょう。
- ②イラストの下に文字を入れたカードを活用するなど、**文字を目にする機会**を増やし、**アルファベットや単語への興味や認識**を高めるような工夫をしましょう。

「書くこと」の指導のポイント

- ①文字指導は、「**読める**」→「**書ける**」という**ステップ**を踏むように心掛けましょう。
- ②英文を書き写す活動では、**日本語と英語の語順の違い**などに気付かせたいものです。

Q5. スモール・トークの指導はどのようにすればよいのでしょうか？

「話すこと[やり取り]」の指導においては、中学校のように英文を読ませて表現をインプットするのではなく、**子どもが興味を持っている題材**をトピックとして**英語の使用場面を設定し、発話のモデル**を示します。その後、指導者と子ども、子ども同士と対話を広げていながら、英語表現に慣れ親しませます。これらの**言語活動を繰り返し**ながら、**慣れ親しみから定着**へと導いていきます。



【Small Talk の一般的なプロセス】

- ①教師が学級全体に対して、簡単に**Teacher's Talk**
- ②Teacher's Talk の途中に、**子どもとのやり取り**
→何人かに質問をするなどして、やり取りのモデルとなる
- ③**子ども同士のやり取り(1回目)**
- ④**中間振り返り・交流**
→言いたくても表現できなかったこと・困ったことの交流
→さらに表現を豊かにするための指導・既習の想起
- ⑤**子ども同士のやり取り(2回目)**

気付き

まずやってみて

想起して

意識して使う

スモール・トークの指導のポイント

- 子どもが**興味・関心のある身近なトピック**の中で、**自分の気持ちや事実**を伝え合わせる。
- 内容をやり取りすることを**楽しませる**中で、**既習表現を繰り返し使用する機会を保障**する。
- **対話を継続**することができるような表現を段階的に加えていく。
- 「言いたいけど言えない」という子に寄り添い、**既習表現を駆使**して自分の言いたいことを伝える経験を積ませる。そのために、**既習表現を想起させる指導**を行う。
- 学習成果は一定程度の期間を経て表れることに留意し、**子どもの活動量を確保**する。

